

令和7年度 高校生の税に関する作文 入賞者

国税庁が募集する「税に関する高校生の作文」には、敦賀税務署管内の高校生から476点の作品が寄せられました。ご応募ありがとうございました。

●金沢国税局長賞

「健康に生活できる理由」

新宅 咲笑(福井県立敦賀高等学校2年)

●敦賀税務署長賞

「当たり前を守る力 ～税の本質に触れて～」
「税金と、私のボート部の毎日」

北村 うた(福井県立美方高等学校1年)

井上 奈々瀬(福井県立美方高等学校1年)

健康に生活できる理由

敦賀高等学校 2年 新宅 咲笑

私の母は、厚生労働省に指定された指定難病を患っています。私が保育園に通っている頃に発症し、入院していたこともあります。体重が十五キログラム程落ち、強い腹痛の症状に苦しんでいました。直接命に関わる病気ではないものの、完治することではなく、症状を抑えることでうまく病気と付き合いこななくてはなりません。

体調が悪い母を見ているのは辛かったです。数年前から注射で新しい薬を投与し始めてから体調が安定するようになりました。しかし、もしこの薬が十割負担だったら負担額は約七十万円。それを三ヶ月に一度打たなければならぬので年間では三百万円近くを支払うことになります。けれど、母はこの薬を約一万円で使用できています。

母がこの薬を使用できているのは税のおかげです。それは、「保険」が存在するからです。医療が保険適用されていて自己負担が減るのは公的医療保険が使えるためです。そして、その公的保険制度は保険料と税によって支えられています。私たちが支払う保険料だけでは足りず、不足分の多くを税で補っています。実際、国民健

康保険の財源のうち約半分が税です。

また、高額医療制度や難病助成制度といったものがあります。これは、高額な医療費を払っても、自己負担額が一定の基準を超えると払い戻される制度です。難病や障害医療費の助成も含め、これからの制度もまた税によって支えられています。

私も母の病院について行ったことがあり、病院の混雑具合に驚いたことがあります。母のような指定難病に苦しんでいる方もたくさんいたし、その他の患者さんもそれぞれが自身の病気に苦しみながら向き合っていました。患者さんたちが定期的に病院に通い、適切な治療を受けたり症状に合わせた薬を飲むことができるのは税があるからだだと知ることができました。

日本は平均寿命でも健康寿命でも世界一位をとっています。このように日本が世界の中でも高い健康水準を保っているのは私たちの健康を守るために税が使われているからこそです。これからも税金が正しく使われ安心して生活できる日本であり続けられることを願っています。

当たり前を守る力～税の本質に触れて～

美方高等学校 1年 北村 うた

私たちの生活の中で、税金はとても身近な存在です。普段はあまり意識していませんが、学校や病院、道路や公園など、日常で利用している多くのものが税金によって支えられています。普段は「あるのが当たり前」と思っている環境が、実は多くの人が取めた税金によって守られているのだと考えれば、社会の仕組みのありがたさに気付かされます。

社会科の授業で、税金でまかなわれているものについて知った時、春に、祖母が入院している病院にお見舞いに行った時のことを思い出しました。そして、地域の医療が整っていることが当たり前ではないことに気づきました。医療機関や設備は、国や自治体の予算つまり税金によって維持されています。もし税金がなかったら、安心して治療を受けられる環境は整わなかったかもしれません。病院で働く多くの医師や看護師の方々の姿を思い出し、税金が人々の健康を守るために使われていることを実感しました。

また、通学で毎日利用している道路やバスも税金によって整備されています。雨の日でも安全に通学できているのは、見えないところで多くの人が働き、税金が使われているからだと思いました。さらに、学校の校舎や教科書の一部にも税金が投入されていることを知り、学ぶ環境そのものが支えられているのだと実感しました。も

し教室が古くなくても修繕がされず、机や椅子が壊れたままだったら、安心して勉強することはできないでしょう。勉強に集中できるのは、多くの人の納税によって環境が整えられているおかげなのです。

私は幼い頃から、町の図書館をよく利用しています。新しい本が次々と入ってきて、読みたい本にすぐ出会えることが嬉しかったのですが、それもまた税金で運営されているからだと思いました。自宅にそろえることのできないほどの多くの本に触れられるのは、みんなで出し合ったお金のおかげなのです。本を通じて得た知識や考え方は、自分の成長に大きくつながっており、税金は学びの幅を広げる役割も果たしていると感じました。

これまで私は「税金＝大人が払うもの」としか考えていませんでした。しかし、実際には、私たち高校生の生活にも大きく関わっています。税金は、社会を支えるための「共同投資」です。自分一人の力ではできないことも、多くの人との協力で実現できます。税金によって支えられてきた私たちだからこそ、その仕組みを理解し、感謝の気持ちを持つことが大切なのだと思います。これからも身近な場面に目を向け、税金の役割を考えながら生活していきたいです。そして、将来は、社会の基盤を創ってくださった先人たちの思に報いるためにも、納税者として誇りを持ち、社会に貢献できる存在になりたいと思います。

税金と、私のボート部の毎日

美方高等学校 1年 井上 奈々瀬

私は高校でボート部に所属しています。毎日、朝早く起きて、朝練で久々子湖の静かな水面で練習する時間は、私にとってかけがえのないものです。そんな日々の中で、「税金」という言葉を聞くと、少し堅苦しくて、自分にはまだ関係ないように感じていました。でも両親と税金について話していたとき、私の生活のすぐそばにも税金があることに気づきました。ボート部の活動には、艇庫の維持費やボートの修理費、遠征の交通費など、さまざま費用がかかります。その一部は、町か県の補助金によって支えられていると先生が教えてくれました。つまり、税金が無ければ、私たちが安全に練習したり、試合に出場したりすることも難しくなるかもしれないのです。若狭町は自然が豊かで、海も山もあり、観光資源にも恵まれています。町の整備された道路や公園、図書館なども、税金によって維持されています。私が安心して暮らし、学び、部活動に打ち込める環境は税金によって支えられているのだと知り、少し見方が変わりました。

また、若狭町は高齢化が進んでいる地域でもあります。

私の祖父も、病院や介護施設を利用していました。そうした福祉サービスも税金によって成り立っていると考えれば税金は「誰かのため」だけでなく、「みんなのため」に使われているのだと感じます。もちろん、税金の使い方には課題もあると思います。ニュースでは無駄遣いの話題も見かけます。でも、だからこそ、若い世代が税について関心を持ち、正しく使われているかを見守ることが大切だと思います。

将来、私が社会人になって税金を納める立場になったとき、「税金は取られるもの」ではなく、「みんなで支え合うための仕組み」だと前向きに考えられるようにしたいです。そして私たち若者が夢を持って暮らせる社会をつくるために、税の役割をもっと理解していきたいと思えます。

税金は、私たちの生活の土台です。ボート部で汗を流す毎日、家族との穏やかな時間も、みんなのおさめた税金によって成り立っていることを忘れずに、これからも感謝の気持ちを持って過ごしていきたいです。